

第2次安曇野市観光振興ビジョン 第2回策定検討委員会 議事録

- 1 会議名 第2次安曇野市観光振興ビジョン 第2回策定検討委員会
- 2 日時 令和4年8月6日 午前10時30分から12時まで
- 3 会場 豊科交流学習センター「きぼう」多目的交流ホール
- 4 出席者 尻無浜博幸 委員(委員長)、宮田弘康 委員(副委員長)、丸山君恵 委員、加藤進 委員、仙石弘子 委員、衛藤悦郎 委員、小岩井清志 委員、白澤勇一 委員、西山直美 委員、青柳靖決 委員(12名中10名)
- 5 オンライン出席者 中村梢 委員、中澤美穂 委員(12名中2名)
- 6 アドバイザー 長野県観光機構 金子孝明
- 6 市側出席者 商工観光スポーツ部 野口部長、観光課 下里課長、高野係長、丸山係長、由井係長、小林係長、黒岩、延本、第一企画株式会社
- 7 公開・非公開の別 公開
- 8 傍聴人 6人 記者 0人
- 9 会議概要作成年月日 令和4年8月12日

協議事項等

1 開会

2 委員長あいさつ

- ・観光は、安曇野市にとって肝になる産業。そのビジョンづくりということで、本委員会は非常に重要な役割を担っている。
- ・会場の雰囲気も仰々しくて、意見が出しにくい雰囲気ではあるが、それを払しょくするような形で意見を出してほしい。

3 議事

●「資料1」に沿い、策定体制について説明(事務局)

- ・前回の説明でわかりづらい点があったため、改めて説明。
- ・本委員会では、ビジョン、アクションプラン、重点プロジェクトについて検討する。
- ・検討にあたって長野県観光機構や市内外の有識者(必要に応じて)を招へいし、助言をもらう。
- ・市民・事業者にはアンケート調査を行い、意見を吸い上げる。
- ・アクションプランまで策定することとなったため、観光庁の補助金を活用して「満足度・重要度分析」「将来予測シナリオの作成」等、新たな業務を追加。今後の委員会で調査結果を示す。

(1) アンケート分析の発表

●「資料2」「別添資料」に沿い、アンケートの分析内容について発表(事務局〈委託事業者〉)

- ・標本は必要数の2倍以上を確保。標本誤差は最大±3.5%以内に収まっていることからアンケートの精度は十分であると考えている。
- ・アンケートの分析について、特徴的なところは次のとおり。

協議事項等

- ① 「交通の便」充実に対するニーズが目立つ。ただし、観光客からの回答ではないことに留意する必要がある。
- ② 期待する観光振興方針は、「住みやすさ」「産業としての振興」「市のイメージアップ」が上位であり、特に10～30代の若者は「飲食業や宿泊業の振興」についての関心が高い。
- ③ 観光関連のキーワードでは、「SDGs」「おもてなし」が上位。
- ④ 観光の振興・発展によるマイナス面では、「渋滞等、交通の不便」が多い。
- ⑤ 移動交通手段では、自家用車がほとんど。コロナの影響もあってか、年数を経るごとに増えている。

〈委員〉アンケート分析を踏まえ、私は観光における課題は5点だと思う。① 交通手段（インフラ・アクセス）の整備。② 自然環境と自然景観の維持保全。③ 歴史・文化・芸術の継承。④ 情報発信。⑤ 観光課の人材の育成。

〈委員〉来訪者アンケートの出どころ、調査数、どういった場所で行ったのか、という表記がないので説明をお願いしたい。

⇒ 〈事務局〉安曇野市観光協会に委託。市内の宿泊施設、日帰り施設で留置式または対面式で毎年四半期ごとに集計している。昨年度の配布数は8,320枚、回答数が2,480枚、回答率は30%。

⇒ 〈委員〉補足。アンケート調査は、観光情報センターに来訪者への対面調査、市内宿泊施設の部屋置き、大型イベント来訪者への対面式で実施。しかし、コロナの影響で2020・2021年はサンプル数が2019年以前の10～15%程度しか取れていない。また、来訪者は50代、60代より上の方が7割と圧倒的であり、必然的にインターネットやSNSへの関心が少ないという傾向がある。

〈委員〉交通の便について。① 自家用車で来ている方が増えているのは、コロナの感染を恐れて公共交通を避けているためである可能性がある。時代の流れなのか、一時的なものか見極めながら検討する必要がある。② 公共交通（JR・バス・タクシー）について、具体的に何が不便なのか示すものはあるか？

⇒ 〈委員長〉アンケート分析では得られていないが、今後、参考になるものがあれば、事務局から提示してほしい。

〈委員〉交通の便については、議事録を見るに第1次観光振興ビジョンを評価・検証する有識者会議でも話題に出ている。そこでの議論の結果（対策方法）を教えてください。

⇒ 〈委員長〉次回への要望として承る。

● 「資料3」に沿い、観光をめぐる背景や現状・課題について説明（事務局）

- ① 観光で「稼ぐ」必要がある。
 - ・ 人口減少による経済的損失の一部を観光振興で補う。
 - ・ コロナ禍で打撃を受けた観光関連産業を回復させる。
- ② 観光にも「サステナブル（持続可能性）」が求められている。

協議事項等

・来訪者も生活者も Win-Win の関係になれる観光地づくりを行う。

③ 戦略的な情報発信・誘客が必要

- ・観光消費額の高いインバウンドや、主要層である首都圏の家族連れ等への情報発信。
- ・10～20年先を見据え、現在主要層であるシニア層以外への情報発信も必要。

④ 観光資源（コト・モノ・ヒト）の活用が重要

- ・観光課ではソフト事業が中心。二次交通（シェアサイクル等）の整備やガイド育成、市民意識の向上など。

〈アドバイザー〉補足として県の考えを説明。

- ・①について。観光だけで「稼ぐ」のではなく、地域にある様々なコンテンツで楽しんでもらいつつ、来訪者にお金を落としてもらう仕組みづくりを考えている。
- ・②について。ヨーロッパ・アメリカの観光客は、サステナブルな観光地づくりに取り組んでいないところには、すでに関心がない。
- ・交通の利便性について。ターゲットごとに交通の利便性を考える必要がある。

〈委員〉③について。需要ボリュームが大きな首都圏・インバウンドへの戦略的なプロモーションがカギとのことで、確かにそのとおりだが、安曇野は長野県において首都圏から一番遠い場所。広域な観点で交通の利便性をどう高めるか、インバウンドが訪れている主要観光地とどう連携するかといった点も課題として考えていく必要がある。

⇒〈委員長〉追加の課題として留意しておく。

〈委員〉観光振興ビジョンの策定にあたっては、市の他の部局との協力・連携が不可欠。

⇒〈事務局〉他の部局でも計画策定にあたっては、観光課に照会があり連携している。本ビジョンの策定にあたっては、他の部局との連携を図りながら進めていく。

【結論】（委員長）

- ・アンケート分析等を踏まえ、産業振興や交通利便性の向上は、本ビジョンにも盛り込んでいく必要がある。ほかにも、来訪者アンケート調査・分析から見えてくるニーズ、「稼ぐ観光」への認知度向上、おもてなし向上、現在の主要層であるシニア層への今後の対策、SDGsの取り組み、なども入れ込んだビジョンとしていきたい。

（2）ビジョン方針（コンセプト）・基本戦略等の検討

●「資料4」に沿い、骨子案（コンセプト・施策の柱・基本戦略）について説明（事務局）

- ・委員会の議論のたたき台として、「骨子案」を作成した。
- ・コンセプト案としては「外貨（市外からの観光収入）を稼ぐ」。
- ・施策の柱は、基盤となる①「持続可能な観光地の形成」、内に向けた②「地域独自の観光資源の活用」、外に向けた③「戦略的な観光プロモーション」の3つ。
- ・各柱に基づく戦略として①「観光地ブランドの確立」「観光DXの推進」「サステナブルツーリズムの推進」、②「地域資源の磨き上げ」「受入体制の整備」「観光人材の育成」、③「関係人口

協議事項等

の創出と活用」「観光交流人口の拡大」「新しい時代の滞在型観光の推進」を設定した。

〈委員〉ビジョンが「絵に描いた餅」にならないように、実行組織（例：DMOなど）も含めて考えるべきだと思うがどうか。

⇒〈事務局〉柱①の3番目の基本戦略「サステナブルツーリズムの推進」にて、体制づくりについて記載している。どういった体制にすべきかの中身については、今後、意見を出していただいたい。

⇒〈委員〉第1次ビジョンでも推進組織についてうたわれていたが、実現に至らなかった。

その反省を踏まえ、組織づくりも同時進行で行っていく必要がある。白馬ではDMO組織「HAKUBA VALLEY TOURISM」が設立され、夏の観光なども活性化され、効果が出てきている。安曇野では観光協会が担っていくのか、別に人材を集めて新しい組織づくりが必要なのかどうなのか、ビジョン策定と同時並行で議論が必要だと考えている。

⇒〈副委員長〉第1次ビジョンで達成できなかったのがプラットフォーム（推進組織）づくりではあるが、どんな体制にするかといった中身についてまで、この策定検討委員会のなかで決める必要はないと考えている。10年間のビジョンのなかで、前期5年で組織をつくり、後期5年でそれに対する成果を出すという計画で進めていってはどうかと考えている。

〈副委員長〉ここでは骨子案の「説明」の部分から議論するのではなく、「コンセプト」や「施策の柱」から順序立てて議論を進めて合意形成し、「基本戦略」の検討へと進めていった方が良く考えている。

〈委員〉昨年度、私は10カ月のトレーニングを経て安曇野市地域通訳案内士の資格を取得した。同時期に資格を取得した仲間とともに、安曇野のディープな良いところをガイドするツアーの造成や売り出し方などについて検討している。ぜひ、地域通訳案内士を活用した施策や事業も検討してほしい。

〈委員〉「地域独自の観光資源の活用」の項目に伝統や文化についても盛り込んでほしい。安曇野市は美しい山や自然、田園風景それに加えて文化や伝統があり、これ無くしては、安曇野は語れない。ぜひお願いしたい。

〈委員〉①「外貨を稼ぐ」というコンセプトには戸惑いを感じる。観光振興で一番大事にするのは安曇野市民のことであり、市民が日常生活で安全で安心して利便性の良い状況で暮らせること。それによる利便性を享受しながら、観光客に楽しんでもらう形で良いのではないか。

②第1次ビジョンの戦略・施策に関しては非常に共感する。第2次でもこれを継承していくべきと考えている。

〈委員〉アンケートについて意外だったのが、観光に関わりたくない人が多いということ。安曇野市内にいる方が改めて自分の住んでいるところの魅力を感じてくると、交通網の印象も良くなると思う。教育を通じて、観光地としての市の魅力を伝えていけば、市民の意識も高まっていくと思う。

協 議 事 項 等

〈委員長〉時間の関係でオンライン参加の2名には意見をもらう機会をつくれず申し訳ない。

【結論】（委員長）

- ・本日2つ目の協議事項「ビジョン方針（コンセプト）・基本戦略等の検討」は継続審議とする。

4 その他

- ・事務局より、次回日程等について連絡。
- ・委員より、参考資料の配布。

5 閉会

※ 会議概要は、原則として公開します。

※ 会議を非公開または一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。